

沼津中央高等学校学校 令和6年度の教育活動に対する学校評価書

1 本年度の重点目標(学校評価の具体的な目標や計画)

- (1) 規範意識及び良識あるマナーを身に付けさせ、自分の行動に責任を持たせる
- (2) 安心安全な学校をつくる
- (3) 学力の定着、向上を目指す
- (4) 生徒の適性にあつた進路希望の実現
- (5) 新学習指導要領に対応した授業展開及び評価と授業力の向上
- (6) 健康で健全な心身を育成する

2 自己評価とそれに対する学校関係者評価(全日制)

(評価点は、A(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった))

評価対象	評価項目	具体的取組み	自己評価			学校評議員評価	
			各評価点	総合評価	学校としての反省と改善策	総合評価	意見
社会的責任感	1 規範意識及び良識あるマナーを身に付けさせ、自分の行動に責任を持たせる	・長欠席(多欠課)生徒への段階的指導の導入(教務課)	A	B	・転退学者17人(11名減)、転籍者6人(1名減)となり、保健課、カウンセリング、医療との結びつきなどの協力が得られた。	B	・市中において当校の生徒評価は高いものと見受ける。
		・ノーチャイムの実施(教務課)	A		・生徒は時間を意識して生活している。		・今年も自転車走行マナーが厳しく指導される。違反者が無く、無事故で3年間過ごす指導を望む。
		【自発的に挨拶できる生徒の育成】 ・教員と委員会・部活動を中心とした挨拶運動を実施(生徒課)	A		・さらにより多くの生徒が挨拶運動に参加できる状況をつくりたい。 ・授業前後の挨拶を良くするため、指導する教員のさらなる意識向上を図る。		・保健室でも登校し、学校に居場所があることは良いと思います。
		【適切な判断力を持った生徒の育成】 ・SNSトラブルなど、現在の課題について考える機会を実施(生徒課)	B		・闇バイト等、SNS犯罪に関する指導を実施する。 ・LHRや朝学習で具体事例を取り扱った指導を実施する。		・2、3年生を見て、こんなに化粧をしていいんだろうかという印象がありました。厳しくなり良かったです。
		・委員会活動の活発化(生徒課)	A		・各種委員会が活発に活動し、新たな取組みができた。		・以前から伺っているSNSの対応は、先生方は良く対応していると思われるが、結果として良い解決に向かっているかどうかははっきりわからない。成果の発芽には時間がかかると思う。
		・生徒会が中心となり校則の目的や合理性を考えさせる。(生徒課)	B		・引き続き校則について考える機会を設け指導する。		・生徒たち身だしなみ、出欠等については、毎年の課題だと思うが、通年これに継続対応していただくことになるかと思う。いつの時代も生徒指導に手を焼くのが目に浮かびます。
		・授業準備チェックシート、帰りのSHRでの瞑想実施(生徒課)	A		・生徒自身が自己の取組みについて振り返る機会となった。		
		・登下校時や授業時の挨拶励行の推進(進路指導課) ・校内での講座や外部講師の講話など、ことあるごとに挨拶の大切さを伝えた。(就職指導課)	A		・大半の生徒がしっかりと挨拶を行うことができている。 ・引き続き、学校全体で取り組めるように努める。		
		・社会人生活を意識した学校生活の点検指導(就職指導課)	B		・進路内定後の欠席者増加を防ぐことができなかった。		
		・和風会との連携による学校行事への積極的参加(総務課)	A		・良好に和風会役員選出を実施でき、学校行事に多数の役員・保護者の参加があった。		
		【挨拶、出欠席、身だしなみ、提出物、時間厳守の徹底】 ・身だしなみ点検は、時間をかけて丁寧に対応した。 ・遅刻、欠席黒板を利用することで情報共有を迅速に行えた。(1年部)	B		・今以上にteamsの利用頻度を高め、情報共有に努める。 ・化粧やピアスをしている生徒に対して「〇〇強化月間」等の指導を実施する。 ・指導に時間がかかる場合は、副担任が連携して指導に当たる。		
		【マナーを身に付け、自己責任を意識させる】 ・学校の「柱」として積極的な挨拶を励行 ・挨拶運動や授業マナー活動を学級委員、風紀委員が中心となり実施 ・校長による「18歳成人」講話の実施(2年部)	B		・今年度の生徒課、風紀委員の挨拶運動、出席黒板の利用などは効果があった。 ・軽微な問題行動が多いため、早期対策として昼巡回を継続する。 ・他クラスへの侵入やスマホ利用などの規範意識向上を徹底する。 ・違反の多い時間帯や場所を重点的に巡回する。		

	・遅刻、早退、欠席が多い生徒への特別奉仕活動の実施と保護者召喚(3年部)	A	・最上級生として、朝の挨拶運動を率先して実施できた。 ・遅刻欠席改善月間をうまく活用できた。 ・進路決定後の遅刻・欠席数の増加に対して、2学期6分の1欠課時数超過の面談を学年面談として実施した。問題意識の低い生徒・保護者に理解、改善を得るように取り組む。	
	・成人として必要な知識、考え方、姿勢を身につけるための講演会を実施(3年部)	A	・保険や税に関する講話を実施し、社会に出る前の知識を得ることができた。	
	・コミュニケーションの第一歩として挨拶や大事な一言の徹底(医療・福祉コース)	A	・実習先や地域の活動でも良くできた。学内での挨拶もより徹底していく。	
2 安心安全な学校をつくる	・「いじめ」、「体罰」、「セクハラ」アンケートを実施(生徒課)	A	・「いじめ」については、気になる書き込みをした生徒に教頭と生徒課長が確認対応を実施する。 ・体罰・セクハラに関する申し出はなかった。	・先生方が良く頑張っている。 ・全体的に自己評価が高いので、先生方もこの点に関しては手ごたえを感じていると思われる。今後も頑張ってもらいたい。
	・学校行事の円滑な実施 ・速やかな集会計画・表彰案内(総務課)	A	・教職員との打合せを円滑に行い、無事行事を実施できた。	
	・消耗品・備品管理の整理整頓と職員への啓発活動(総務課)	B	・課内の取組みは良好であったが、教職員全体のさらなる意識を向上させる。	
	【クラスや学年での行事を通じて、感動を共有する】 ・ミニ運動会の実施、たちばな祭でのクラス間の絆を深める。(1年部)	A	・初期指導でミニ運動会を実施したことでクラスの絆が深まった。 ・学年レクリエーションが中止となり、実施できなかったため、次年度は共に活動する時間をつくる。	
	【校則や社会のルールを意識した行動をさせる】 ・問題行動が続いたとき、即座に臨時学年集会を実施 ・マナー探究でクラスを跨いだ活動を行い、学年の規範意識を高めた。(1年部)	A	・学級委員会を実施して、リーダーを育成するとともに、学級委員から生徒に対して声掛け機会をつくる。 ・問題行動が起こったときに、HR等の時間を利用し、担任が丁寧に生徒に伝える。	
	・良い習慣や行いを学年で共有し、他者との良好な関係づくりの構築(2年部)	B	・HRリーダーを集め、事前・事後の会議を計画的に実施し、学校行事の取組み方やスケジュール管理などの改善点を考えさせる。	
	・コース基礎プログラム(5コース+進路)の導入(教務課)	A	・就職指導課協力のもと、1年生1学期より、将来のことを考えた取組み実施できた。	・近年傾向のIT 教育の重視にいち早く即応し、設備についても注力していることは評価できる。 ・上位層の進路意識を高める工夫をしている。 ・自己評価は高いように感じるが、職員間ではまだできることがあるように思われているのかもしれない。そのあたりも自己評価の反省を見ると課題が見えてくるので今後の指導改善に期待できる。
	・各コースのターゲット校一覧を提示し、各教科に過去問研究を依頼(進路指導課)	B	・各教科で過去問研究や共通テストの分析を行い、授業や進学補講、課題等で取り扱った。	
	・基礎力診断テスト分析の職員研修の実施(進路指導課)	A	・教員の進路指導に対する意欲が高まった。アンケート結果を活用し、より効果的に実施する。	
	・公務員試験対策講座の実施 ・適性問題対策や静岡県警、警視庁、自衛官職員の来校指導実施 ・税務署への見学実施(就職指導課)	A	・静岡県県警1名、税務職員1名、陸上自衛官1名合格し就職した。 ・生徒の素養と希望と企業の求める人物のマッチングができた。 ・「合格する職種」の選定などの研究を推進する。	
	・教員によるおすすめ本の紹介(図書課)	B	・昨年度と同程度の紹介はできた。次年度は計画的な依頼をすることでおすすめ本の紹介を増やす。	
	・たちばな祭でのビブリオバトルの運営(図書課)	A	・校内の予選会から決勝大会を実施し、校内優勝者は県の予選会に出場した。 ・準備・投票方法の改善と委員会のさ	

3 学力の 定着と 向上	【進学指導補習の積極的な参加と個別対応】 ・進学指導課・担任と連携して、学業特待生や上位層に対して補習参加の声掛け ・一人一つ以上の検定受験の達成(1年部)	A	B	・進学指導課・担任と連携して、学業特待生や学力上位層の生徒への声掛けがうまくできた。 ・担任を中心として、様々な立場の教員(部活・教科担当等)が声掛けを行う。 ・全員の検定受験には至らなかった。年度初めに自分の取得する検定を決め、受験時期まで定める	B
	【進路意識を向上させる】 ・自主学习、家庭学習の習慣化の促進(2年部)	B		・成績中レベルの生徒への学び直しを実施する。 ・進路意識の低い生徒への個別相談会の機会を増やす。	
	・学習ノート、大自在の活用(3年部)	B		・学習ノートや大自在の積み重ねの活用は重要であるが、取組み内容と効果について検証する必要がある。(進路資料作成において、語彙力・漢字力の低さに苦慮した。)	
	・公開授業の実施とコース内での取組み内容の共有化(アドバンスコース)	A		・課題研究授業の公開と課題研究発表会の実施や「3年生の話を聞く会」を継続して実施する。	
	【医療・福祉コースでの実践・活動を振り返る機会として学習発表会を実施する】 ・天竜学習で学んだ内容の発表の実施(医療・福祉コース)	A		・2年生は天竜実習、3年生は医療・福祉コースで学んだことを自分の進路と絡めて発表を行う。	
	・3年生で「ソフトウェア活用」の授業を実施(情報コース)	A		・全商Webアプリコンテストで入賞できた。 ・入賞者が1名だったので全体のレベルを底上げしたい。	
	・男子生徒のリーダーの育成(生活文化)	A		・OCや発表会等で、男子生徒の活躍場面が多くなった。	
	・各種コンテストへの挑戦(生活文化)	B		・長期休業中の課題等での取組みでは入賞に至らなかった。	
	・生徒作品を多く展示し活動意欲を高める。(生活文化)	A		・校内のみならず、ファッションショーなどをSNS・HPでPRできた。	
	【Handy(就職情報資料)、進路指導室の活用】 ・Handyを3年は5月、2年は2月から運用し、生徒・保護者が一緒になって検討するツールとなった。(就職指導課)	A		・生徒のお気に入り機能とした企業の把握や受験投稿機能の状況把握を図る。 ・教員全員のHandyアカウント登録を実現する。	
	【進路結果の見える化】 ・就職指導のフローチャートを掲示し、講座等で繰り返し説明を実施 ・3年進級直前の3月企業見学会実施(就職指導課)	B		・自動車学校手続きなど、どれだけ説明しても説明を理解しない(しようしない)生徒と保護者の存在。 ・書類提出期限を理解せず守らない。 ・書類提出後に自己都合で進路変更を言い出す家庭への対応。	
	【進路実現準備の徹底】 ・進路の判別(進学・就職)確認の徹底(3年部)	B		・就職活動において書類提出の手続き、生徒の振り分けをしっかりと行えた。	
	・進学上位校を目指す生徒への個別指導強化(3年部)	A		・三者面談できない家庭や進路決定できない家庭、進学で合格決定後に辞退する生徒の対応に苦慮した。	
4 生徒の 適性に 包括的 学習支援	【国際交流や出前授業等を充実させ、進路について考える機会を増やす】 ・台湾交流の継続 ・地域のイベント等への積極的な参加(アドバンスコース)	B		・日程的に実施できない交流があったので、年度当初の計画を実施する。 ・コロナ禍において活動停止となっている事柄が多いので、実施可能な研修内容について復活を検討する。	
					・学校として粘り強く生徒・保護者に対応している。 ・自己評価Dもあり、実施できなかったことがあったようなので、次年度には可能な限り実施していただき、自己評価を高めてもらいたい。教員としての本領発揮してほしい。

あった進路希望の実現	【検定・模試・進学補講を活用し、実力養成に結びつける】 ・各種検定取得の計画的提示(アドバンスコース)	B	B	・検定取得の意義は浸透してきたので、コース内での競い合いの状況を作りたい。 ・各教科の先生に模試や検定の問題を扱ってもらった。 ・国公立大2名、有名私大2名合格	B
	【医療・福祉現場での積極的な交流活動や体験学習を実施する】 ・天竜実習を復活実施 ・外部講師を招聘した実習実施(医療・福祉コース)	B		・天竜実習や外部の講師を招いての講座を実施したが、回数としては積極的な展開とは言えなかった。 ・次年度は、根本的なコースカリキュラムの在り方について研究したい。	
	【コース全体で行事に取り組み生徒を育てる】 ・継続した作品制作と経験を通して、個々の進路決定ができるような声掛け支援(工芸デザインコース)	B		・1年次からタブレットで制作過程の記録を撮り、スライドにまとめた。 ・3年次ではまとまったスライドになり、校内外でプレゼンを行い、受験や面接でポートフォリオとして活用した。	
	・コース選択ミスがないように、コース通信の配信(生活文化)	B		・学期に1回の発行が実現できなかった。	
	・進学のチャレンジ校・ターゲット校の見極めと指導(生活文化)	A		・教員間の情報交換がスムーズに実施でき、進学希望者に対する早期の相談指導対応ができた。	
	・大学講師派遣授業を実施し、見分を広げる。(生活文化コース)	D		・実施できなかった。	
	・適性理解のための個人面談の充実(情報コース)	A		・就職では自身の適性を深め、大手企業、公務員の内定・合格を得ることができた。 ・進学希望者では、もう少し上のレベルを目指す生徒の意識を上げたい。	
5 新学習指導要領に対応した授業展開及び評価と授業力の向上	・3観点評価の実施と検証(度数分布での推移調査)(教務課)	A		・成績度数分布の推移は安定した結果を示している。	B
	・一部の教科で欠点候補者補習が実施されなかった。(教務課)	C		・成績処理の時期だけでなく、テスト直後など早い時期の実施を増やしたい。	
	・多様なICT教育を実践していることのPR(募集広報)	A		・様々なイベントを通してICTの活用状況をPRできた。	
	・授業などでの企業交流実施(就職指導課)	A		・商業科(観光ビジネス)で3社の企業来校を実現できた。 ・理科(生物基礎)の授業で体感型動物園(iZoo)を来校させ、実習を行った。	
	・大自在ノートの活用(図書課)	B	B	・学年ごとに確認内容のポイントを絞って実施したが、評価の在り方について検討の余地が残った。	
	・アクティブラーニング資料の充実(図書課)	B		・教科主任やコース担当者へ、計画的に選定図書の提案を行うことができた。 ・教員への選書案内や資料の回覧方法の改善を行った。	
	・ITC機材の管理徹底(iプロジェクトンアプリインストールの促進)(図書課)	B		・iプロジェクトンアプリインストール未実施者への啓発とHDMIケーブル管理方法の変更(記入手続き)を実施する。	
	【コース活動の活発化】 ・検定、模試、ボランティア活動への参加を推奨し、進路課と協力して呼び掛けの徹底(2年部)	A		・受験者が2学期に増加し、進路意識が高まった。全コースで活用できる検定一覧表を作成し、周知を強化する。検定未取得の生徒への意識啓発を行う。	
	・教育相談と連携した生徒の実態把握(生徒課)	C		・他の課との連携が十分にできなかった。長期休みに教育相談と情報共有を行い生徒理解を促進したい。	・自己評価が平均点Bであるように見受けられるが、各課や保健室、相談室との連携をさらにみつめていたが

健康で健全な心身を育成する 健やかな体と心	・毎日昼休みに、生徒相談室(CS)を開放する。 ・学年ごとで、生徒対応やクールダウン等での利用(保健課)	B	・生徒相談室の存在についての周知が十分でなかった。 ・情報共有は相談実施後、学年の教育相談の教員にも入って話を聞いてもらった。	B	より評価を高められる施策活動をしていただきたい。
	【校内清掃状況の向上と視覚化の取組み】 ・「頭上ホコリ取り」、「教室環境整備」、「換気点検」を実施 ・Google classroomを活用し、清掃実施前後の様子を写真に撮って確認(保健課)	B	・ゴミ捨てマナーは改善されたように感じる。 ・清掃管理の情報発信の継続と指導の徹底する。		
	・薬学講座や保健委員会を通して健康管理について考える機会をつくる。(保健課)	B	・薬学講座や委員会活動は予定通り実施することができた。		
	【保健室の利用方法の確認と問題の予防】 ・保健室来室手順と利用マナーの周知 ・「朝いない生徒」の記載方法の変更による確認漏れの防止 ・「心配な生徒」の情報共有(7月・10月)実施(保健課)	B	・保健室来室手順については概ね指導できた。 ・「朝いない生徒」の確認漏れを防ぐことができた。 ・生徒の保健室利用マナーの周知徹底。 ・保護者に対しても保健室やカウンセリングルームの利用の周知を実施する。		
	【相談室の運営】 ・教育相談と協力して毎日昼休みにカウンセリングルームの開放 ・学年ごとに生徒対応やクールダウン等での利用 ・保健課職員と教育相談の担当教員との情報共有(保健課)	B	・生徒に対する生徒相談室の周知が不十分だった。 ・相談室の基盤づくりと活用方法を構築する。		
	・図書委員会の活性化(ブックリストの作成・ポップ製作、昼の校内放送実施)	A	・読書活動の啓発を継続する。(昼の放送委員会との連携と前後期の委員入替えでの引継ぎ方法の改善を行う)		
	・「こころ検定」を通じて、自分と相手の心の理解を促す。 ・人を支える姿勢が前提として心身の安定を高める。(医療・福祉コース)	B	・2, 3年生ともに意欲的に取組んだが、不合格者の取組みや理解度を分析し、合格率を上げる。 ・様々な事情により、メンタルの不調を抱える生徒が多いが、そのためのサポートが十分でなかった。		

2 自己評価とそれに対する学校関係者評価(通信制)

(評価点は、A(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった))

評価対象	評価項目	具体的取組み	自己評価		学校評議員評価		
			各評価点	総合評価	学校としての反省と改善策	総合評価	意見
*通信制課程の開設及びニーズに合った通信制教育を実施する	・通信制課程の充実した教育システムの構築	・通信教育実施計画の作成、時間割検討、スクーリング、レポート、放送視聴課題、テストの実施 ・SMLを使った教務管理と学習活動の構築 ・年間指導計画、ニーズの整理 ・内規の整理	A	A	・概ねイメージ通りの実施ができたが、放送視聴課題について検討が必要 ・SMLを使い最低限必要な管理と学習活動はできた ・イメージはできた、継続してニーズも踏まえた年間計画を検討する ・内規の修正点を都度把握したので、次年度につなげたい	A	・実践校を視察し本校の進むべき方向性を探り、準備をしながら一歩を踏み出したところ。開校して見えてくる課題も多々あると思うが、焦らず取り組んで欲しい。 ・ロマンを持ってチャレンジしていくべき。 ・このまま進めていくことでしっかり教育システムを構築されることを期待している。
	・積極的な広報活動の展開	・中学校周り(広報と需要調査) ・中学(塾)教諭対象の見学・説明会実施 ・中学生(及び保護者)対象の見学説明会の実施 ・近隣高校への訪問と広報物の配布 ・パンフレット、チラシ、要項等の広報物の作成とHPの整備 ・転入学生の受け入れ	A	A	・東部地域の中学校を訪問し、少しずつだが広報できた ・中学(塾)教諭に5回延べ90人、中学生(保護者)には13回延べ203名に見学・説明を実施、広報物等も配布した ・転入学は在校生のロコミが大きく影響しており、在校生の家庭からの評価は得られていると思われる ・他校の視察が多かった。伝統校の通信制という他にないブランドを早期に固める必要がある	A	・想定以上の希望者も出ていることと、保護者からの評判や関心も高いように聞いている。良く努力されていると思う。
	・全日制課程との協力体制の構築	・行事や学習活動等で予定重複を避けるための情報共有 ・募集活動での分担と協力 ・転籍のルールづくりと転籍生の受け入れ	C	C	・年度初めは生徒が全日制と交わる場面に気を遣ったが、次第に住み分けが進み落ちついた ・通信制課程の運用・確立を優先しているため、教職員全員が通信制課程を理解している段階にはまだない。全日制・通信制を併せた募集活動は今後の課題 ・自律心が低い生徒にとって通信制への転籍は更なる苦の上塗りであって、実はむしろ全日制に留まる方が進級(卒業)しやすい。最終ラインは必ずしも通信制ではなく、全日制に留まるように踏ん張る指導が必要な場合がある。この感覚を教員間でどこまで理解・共有できるかは今後の課題	B	・一步一步、確実に前進していけるよう期待している。 ・将来的に全日制との兼務が必要になってくると思うが、全通併置校の強みを生かせるように工夫していくことを期待する。